

# 計算機プログラミングI

第7回 2002年11月28日(木)

- 再帰
  - 帰納的定義
  - 再帰的なメソッド定義
  - 再帰的なメソッドの実行
  - 応用
- 課題の提出方法

なぜなぜ

1, 1, 2, 3, ?

なぞなぞ

1, 1, 2, 3, 5, ?

なぞなぞ

1, 1, 2, 3, 5, 8, ?

なぞなぞ

1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, 34, 55, ...

直前の2つの数の和

# なぞなぞ

- $f(0)=1$

1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, 34, 55, ...

- $f(1)=1$

- $f(2)=f(1)+f(0)=2$

- $f(3)=f(2)+f(1)=3$

- $f(n)=$  ?

(ただし  $n>1$ )

# なぞなぞ

$$\bullet f(0)=1$$

1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, 34, 55, ...

$$\bullet f(1)=1$$

$$\bullet f(2)=f(1)+f(0)=2$$

$$\bullet f(3)=f(2)+f(1)=3$$

• ベースケースと  
• 1つ進めた場合  
で定義 ——

帰納的定義

(inductive)

$$\bullet f(n)=f(n-1)+f(n-2) \quad (\text{ただし } n>1)$$

# 帰納的定義

関数や処理を定義する方法

- パラメータ  $x$  に注目して

- ベースケース

- 一つ進めた場合

を定義し、全ての場合を定義する

- 例: フィボナッチ数列

- $x$  (番目のフィボナッチ数) に関する帰納的定義

- ベースケース:  $x=0, x=1$  の場合

- 一つ進めた場合:  $x$  番目を  $x-1, x-2$  番目で定義

- $x > 0$  全ての場合に定義される



# フィボナッチ数の帰納的定義

$$f(n) = \begin{cases} 1 & (n=0, n=1) \\ f(n-1) + f(n-2) & (n>1) \end{cases}$$

全ての自然数 $n$ について定義されている。

- 0,1については定義されている
- 0から $k$ まで定義されているとする(帰納法の仮定)と $k+1$ についても定義されている

## 再帰的なメソッド定義

$$f(n) = \begin{cases} 1 & (n=0, n=1) \\ f(n-1) + f(n-2) & (n>1) \end{cases}$$

帰納的な定義は、再帰的なメソッド呼出によって、ほとんどそのままメソッド定義にできる

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

# 再帰的なメソッド定義

$$f(n) = \begin{cases} 1 & (n=0, n=1) \\ f(n-1) + f(n-2) & (n>1) \end{cases}$$

帰納的な定義は、再帰的なメソッド呼出によって、ほとんどそのままメソッド定義にできる

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

## 再帰的なメソッド定義

$$f(n) = \begin{cases} 1 & (n=0, n=1) \\ f(n-1) + f(n-2) & (n>1) \end{cases}$$

帰納的な定義は、再帰的なメソッド呼出によって、ほとんどそのままメソッド定義にできる

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

# 再帰的なメソッド定義

$$f(n) = \begin{cases} 1 & (n=0, n=1) \\ f(n-1) + f(n-2) & (n>1) \end{cases}$$

帰納的な定義は、再帰的なメソッド呼出によって、ほとんどそのままメソッド定義にできる

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

## 再帰的なメソッド定義

$$f(n) = \begin{cases} 1 & (n=0, n=1) \\ f(n-1) + f(n-2) & (n>1) \end{cases}$$

帰納的な定義は、再帰的なメソッド呼出によって、ほとんどそのままメソッド定義にできる

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

# 再帰的なメソッド定義

$$f(n) = \begin{cases} 1 & (n=0, n=1) \\ f(n-1) + f(n-2) & (n>1) \end{cases}$$

帰納的な定義は、再帰的なメソッド呼出によって、  
ほとんどそのままメソッド定義にできる

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

ほとんどそのまま  
対応している

# 補足

- クラスメソッドの定義
- 戻り値の型
- 引数の型
- 引数の値がしまわれる変数名
- クラスメソッドの呼出 (Fibonacci.f(n-1)と同じ  
同一クラス中では  
クラス名が省略できる)
- 計算結果を返す文

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

```
public class Fibonacci {  
    ...  
    public static int f(int n) {  
        if (n == 0 || n == 1) {  
            return 1;  
        } else {  
            return Fibonacci.f(n-1) + Fibonacci.f(n-2);  
        }  
    }  
    ...  
}
```



# 補足

- クラスメソッドの定義
- 戻り値の型
- 引数の型
- 引数の値がしまわれる変数名
- クラスメソッドの呼出 (Fibonacci.f(n-1)と同じ  
同一クラス中では  
クラス名が省略できる)
- 計算結果を返す文

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

```
public class Fibonacci {  
    ...  
    public static int f(int n) {  
        if (n == 0 || n == 1) {  
            return 1;  
        } else {  
            return Fibonacci.f(n-1) + Fibonacci.f(n-2);  
        }  
    }  
    ...  
}
```

# 補足

- クラスメソッドの定義
  - 戻り値の型
  - 引数の型
  - 引数の値がしまわれる変数名
- クラスメソッドの呼出 (Fibonacci.f(n-1)と同じ  
同一クラス中では  
クラス名が省略できる)
  - 計算結果を返す文

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

```
public class Fibonacci {  
    ...  
    public static int f(int n) {  
        if (n == 0 || n == 1) {  
            return 1;  
        } else {  
            return Fibonacci.f(n-1) + Fibonacci.f(n-2);  
        }  
    }  
    ...  
}
```

# 補足

- クラスメソッドの定義
- 戻り値の型
- 引数の型
- 引数の値がしまわれる変数名
- クラスメソッドの呼出 (Fibonacci.f(n-1)と同じ  
同一クラス中では  
クラス名が省略できる)
- 計算結果を返す文

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

```
public class Fibonacci {  
    ...  
    public static int f(int n) {  
        if (n == 0 || n == 1) {  
            return 1;  
        } else {  
            return Fibonacci.f(n-1) + Fibonacci.f(n-2);  
        }  
    }  
    ...  
}
```

# 補足

- クラスメソッドの定義
- 戻り値の型
- 引数の型
- 引数の値がしまわれる変数名
- クラスメソッドの呼出 (Fibonacci.f(n-1)と同じ  
同一クラス中では  
クラス名が省略できる)
- 計算結果を返す文

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

```
public class Fibonacci {  
    ...  
    public static int f(int n) {  
        if (n == 0 || n == 1) {  
            return 1;  
        } else {  
            return Fibonacci.f(n-1) + Fibonacci.f(n-2);  
        }  
    }  
    ...  
}
```

# 補足

- クラスメソッドの定義
- 戻り値の型
- 引数の型
- 引数の値がしまわれる変数名
- クラスメソッドの呼出 (Fibonacci.f(n-1)と同じ  
同一クラス中では  
クラス名が省略できる)
- 計算結果を返す文

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

```
public class Fibonacci {  
    ...  
    public static int f(int n) {  
        if (n == 0 || n == 1) {  
            return 1;  
        } else {  
            return Fibonacci.f(n-1) + Fibonacci.f(n-2);  
        }  
    }  
    ...  
}
```

# 補足

- クラスメソッドの定義
- 戻り値の型
- 引数の型
- 引数の値がしまわれる変数名
- クラスメソッドの呼出 (Fibonacci.f(n-1)と同じ  
同一クラス中では  
クラス名が省略できる)
- 計算結果を返す文

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

```
public class Fibonacci {  
    ...  
    public static int f(int n) {  
        if (n == 0 || n == 1) {  
            return 1;  
        } else {  
            return Fibonacci.f(n-1) + Fibonacci.f(n-2);  
        }  
    }  
    ...  
}
```

# 補足

再帰的なメソッド呼出:  
同じメソッドを呼出している  
こと以外は変わらない

- クラスメソッドの定義
- 戻り値の型
- 引数の型
- 引数の値がしまわれる変数名
- クラスメソッドの呼出 (Fibonacci.f(n-1)と同じ  
同一クラス中では  
クラス名が省略できる)
- 計算結果を返す文

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

```
public class Fibonacci {  
    ...  
    public static int f(int n) {  
        if (n == 0 || n == 1) {  
            return 1;  
        } else {  
            return Fibonacci.f(n-1) + Fibonacci.f(n-2);  
        }  
    }  
    ...  
}
```

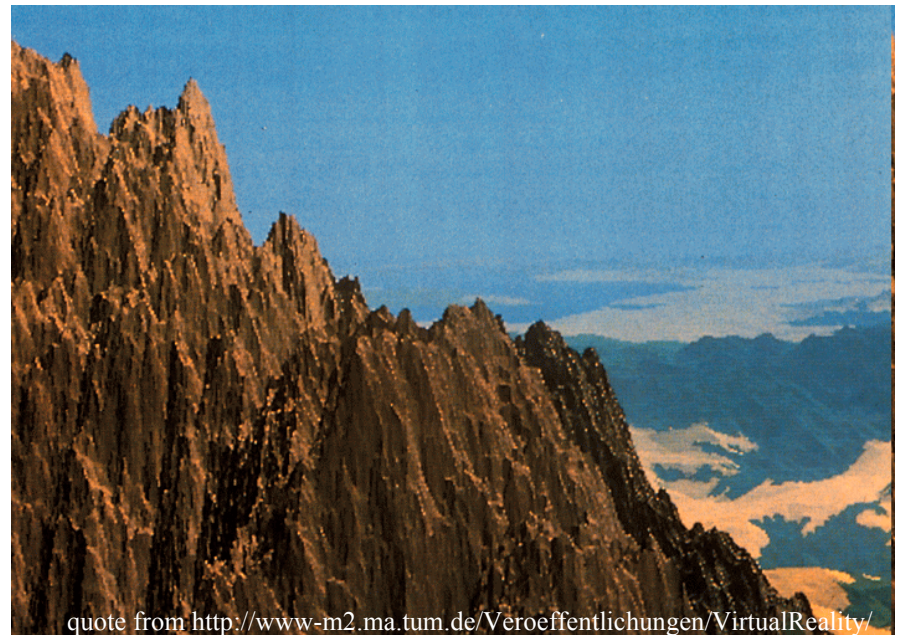
# 練習

- 7-1\*: 冪乗と同じような形式で書けばよい
- 7-2:
- 7-3\*: 難しい場合は、まず2の30乗だけ  
(参考: 第6回のSqrtクラス)
- 7-4:



# フラクタル図形

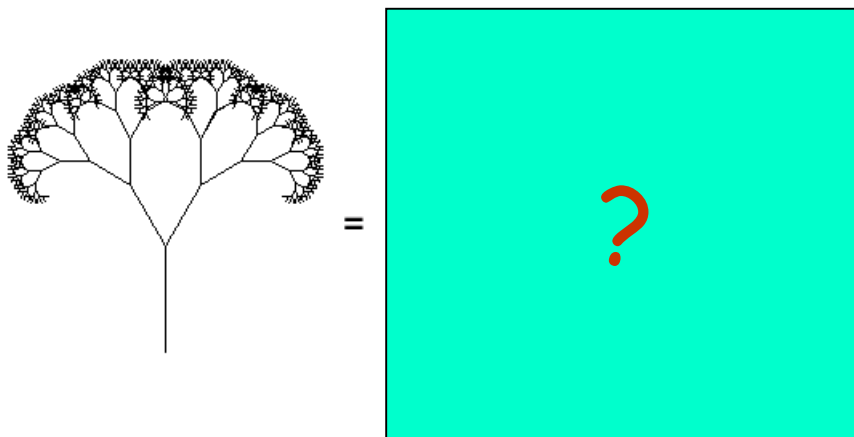
- 自己相似形とも言う
- 自然界の形状によく見られる
- 木の形・山の形・・・



quote from <http://www-m2.ma.tum.de/Veroeffentlichungen/VirtualReality/>

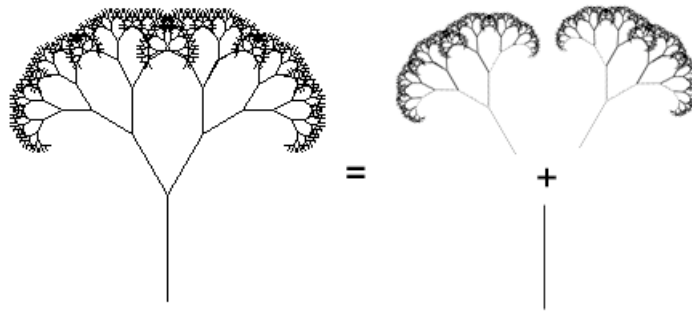
# フラクタル図形による木

木 = ?



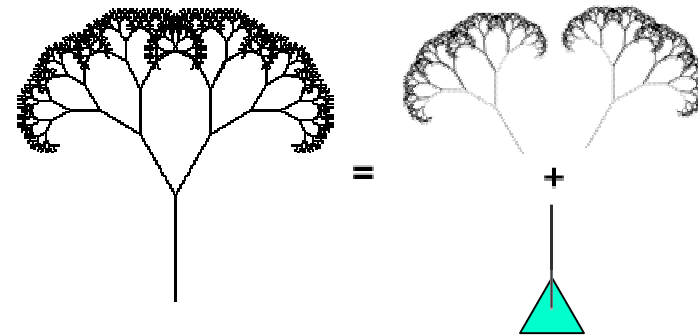
# フラクタル図形による木

木 = 幹 + (小さく傾いた木) × 2



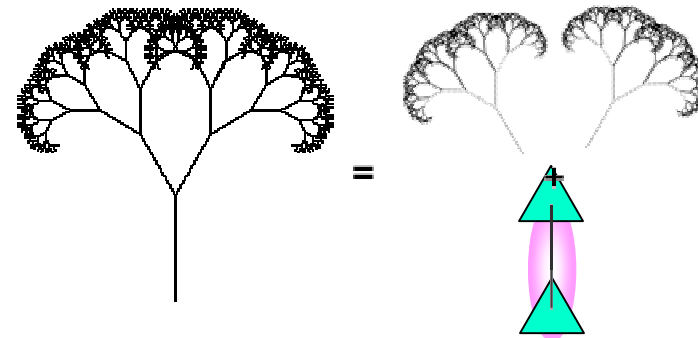
# タートルグラフィクスによる木

- ・ 高さ $l$ の木を描く:
  - ・  $1/3$ 前進する
  - ・  $30$ 度左に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・  $60$ 度右に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・  $30$ 度左に回転
  - ・  $1/3$ 後退する



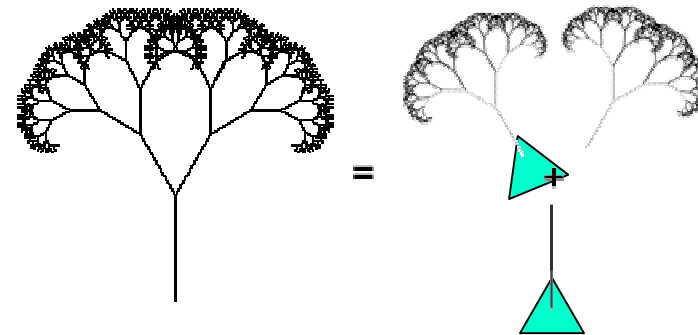
# タートルグラフィクスによる木

- ・ 高さ $l$ の木を描く:
  - ・  $1/3$ 前進する
  - ・  $30$ 度左に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・  $60$ 度右に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・  $30$ 度左に回転
  - ・  $1/3$ 後退する



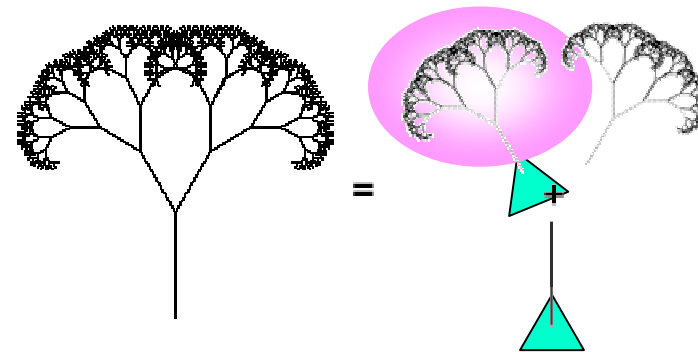
# タートルグラフィクスによる木

- ・ 高さ $l$ の木を描く:
  - ・  $1/3$ 前進する
  - ・ 30度左に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・ 60度右に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・ 30度左に回転
  - ・  $1/3$ 後退する



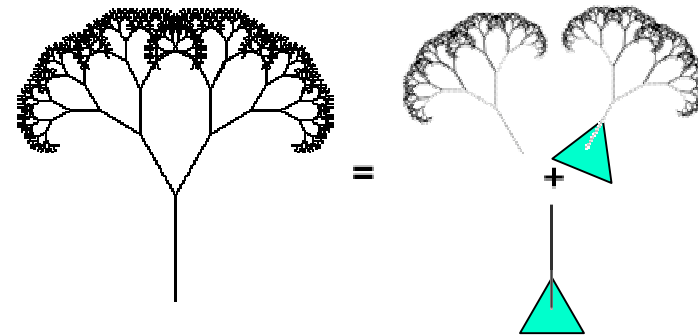
# タートルグラフィクスによる木

- ・ 高さ $l$ の木を描く:
  - ・  $1/3$ 前進する
  - ・  $30$ 度左に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・  $60$ 度右に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・  $30$ 度左に回転
  - ・  $1/3$ 後退する



# タートルグラフィクスによる木

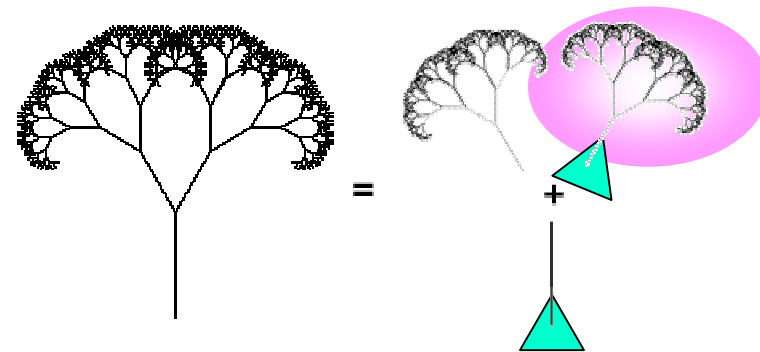
- ・ 高さ $l$ の木を描く:
  - ・  $1/3$ 前進する
  - ・  $30$ 度左に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・  $60$ 度右に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・  $30$ 度左に回転
  - ・  $1/3$ 後退する





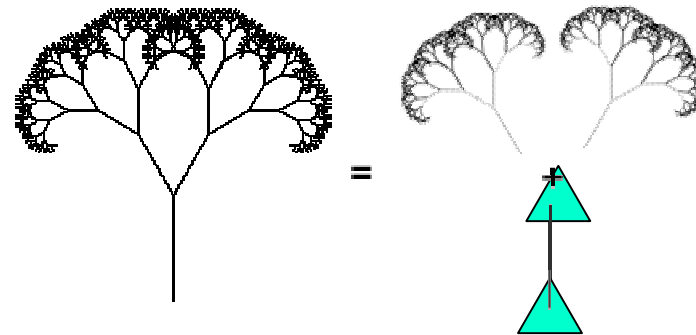
# タートルグラフィクスによる木

- ・ 高さ $l$ の木を描く:
  - ・  $1/3$ 前進する
  - ・ 30度左に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・ 60度右に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・ 30度左に回転
  - ・  $1/3$ 後退する



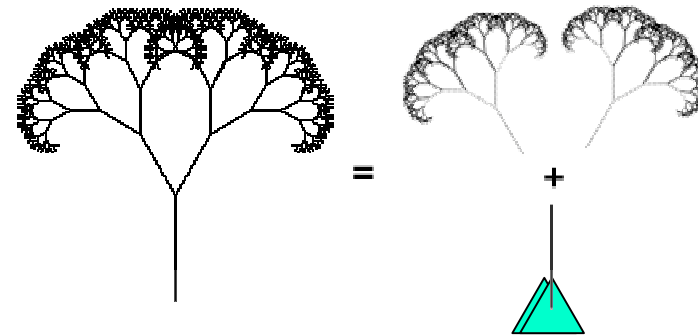
# タートルグラフィクスによる木

- ・ 高さ $l$ の木を描く:
  - ・  $1/3$ 前進する
  - ・ 30度左に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・ 60度右に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・ 30度左に回転
  - ・  $1/3$ 後退する



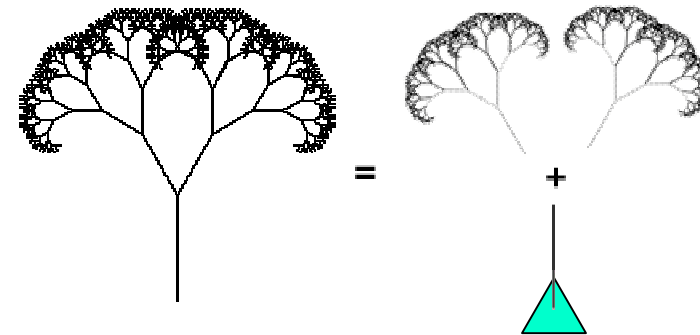
# タートルグラフィクスによる木

- ・ 高さ $l$ の木を描く:
  - ・  $1/3$ 前進する
  - ・ 30度左に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・ 60度右に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・ 30度左に回転
  - ・  $1/3$ 後退する



# タートルグラフィクスによる木

- ・ 高さ $l$ の木を描く:
  - ・  $1/3$ 前進する
  - ・  $30$ 度左に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・  $60$ 度右に回転
  - ・ 高さ $2l/3$ の木を描く
  - ・  $30$ 度左に回転
  - ・  $1/3$ 後退する

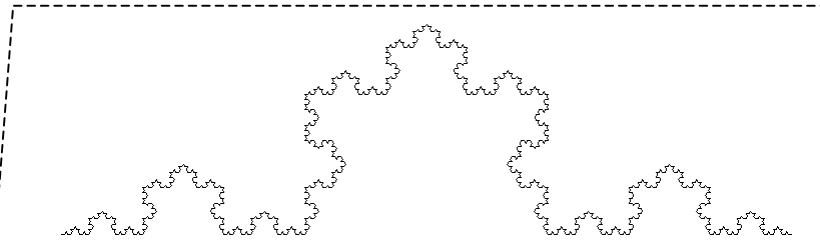
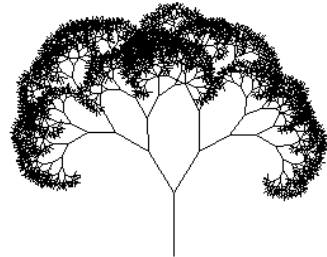


再帰的な  
メソッド呼出

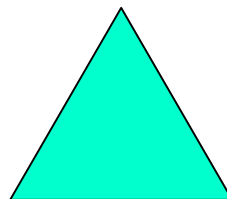
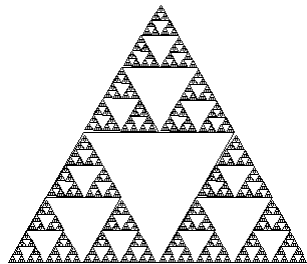
# 練習

- 7-5\* Tree.javaをダウンロード  
drawTree(m, 長さ); 一再帰的な呼出し

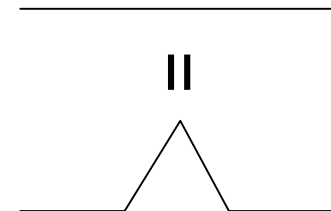
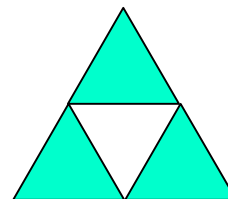
- 7-6 (b)



- 7-7



=



# 再帰的メソッドの実行

- f(2) が実行される:  
途中でf(1)とf(0)が実行される
- 呼出す側・呼出される側の実行は全く別のもの

f(2)を呼び出し

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

実行1: n=2

f(n-1)つまりf(1)を呼出し  
値と場所を覚える

# 再帰的メソッドの実行

- f(2) が実行される:  
途中でf(1)とf(0)が実行される
- 呼出す側・呼出される側の実行は全く別のもの

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

実行1: n=2 , ここを実行中

return 1 で終了

# 再帰的メソッドの実行

- f(2) が実行される:  
途中でf(1)とf(0)が実行される
- 呼出す側・呼出される側の実行は全く別のもの

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

実行1: n=2 ここを実行中

実行2: n=1

return 1 で終了



# 再帰的メソッドの実行

- f(2) が実行される:  
途中でf(1)とf(0)が実行される
- 呼出す側・呼出される側の実行は全く別のもの

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

実行1: n=2 , ここを実行中

実行2: n=1

return 1 で終了

場所と値を思い出す

# 再帰的メソッドの実行

- f(2) が実行される:  
途中でf(1)とf(0)が実行される
- 呼出す側・呼出される側の実行は全く別のもの

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

実行1: n=2 , この次から実行再開

f(n-1)の結果=1  
f(n-2)つまりf(0)を実行  
値と場所を覚える

# 再帰的メソッドの実行

- f(2) が実行される:  
途中でf(1)とf(0)が実行される
- 呼出す側・呼出される側の実行は全く別のもの

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

実行1: n=2 . この結果は1  
ここを実行中

return 1 で終了





# 再帰的メソッドの実行

- f(2) が実行される:  
途中でf(1)とf(0)が実行される
- 呼出す側・呼出される側の実行は全く別のもの

```
public static int f(int n) {  
    if (n == 0 || n == 1) {  
        return 1;  
    } else {  
        return f(n-1) + f(n-2);  
    }  
}
```

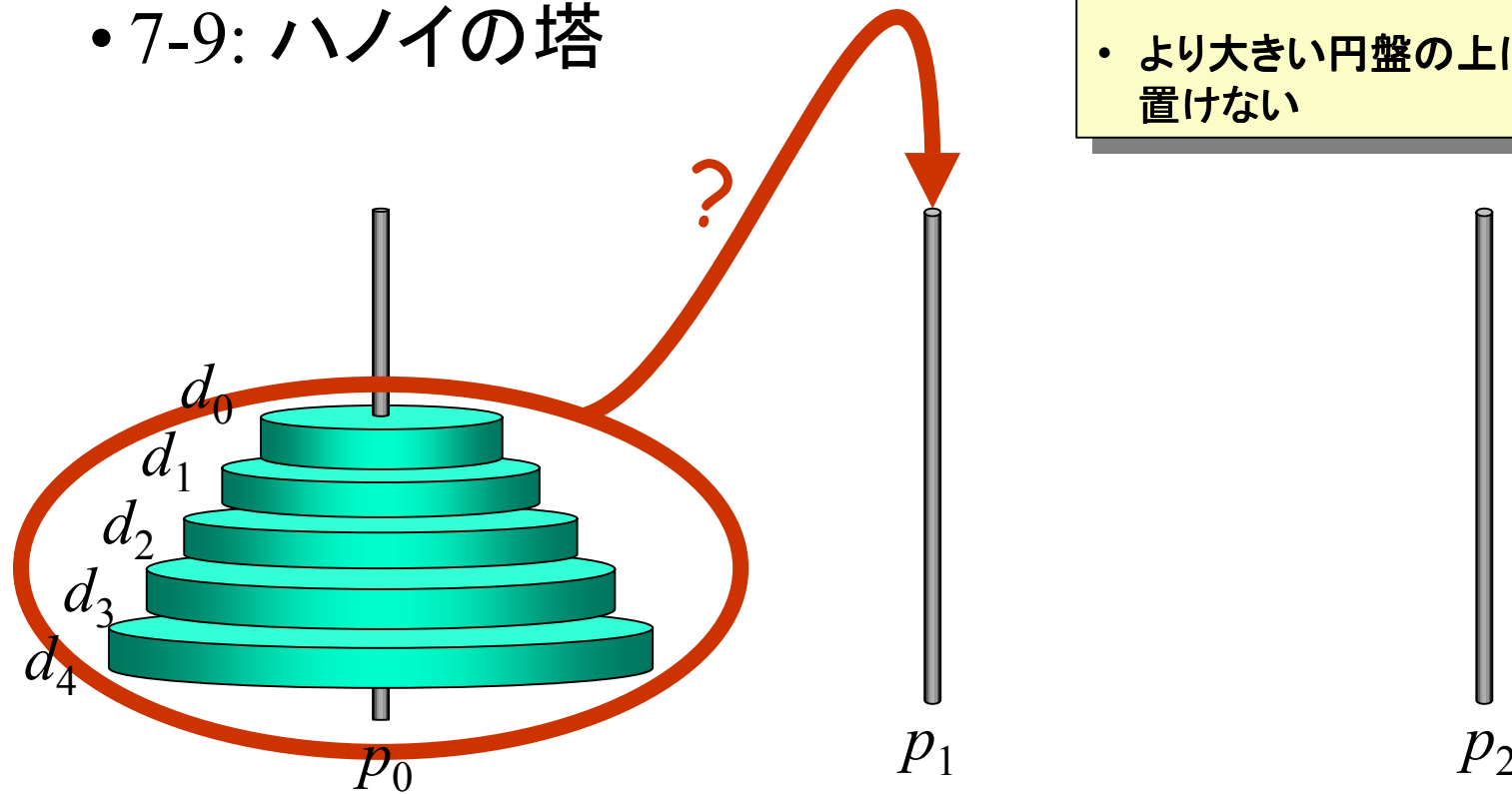
実行1: n=2 . この結果は1  
          . ここから再開

f(n-2)の結果=1  
1+1を計算して終了

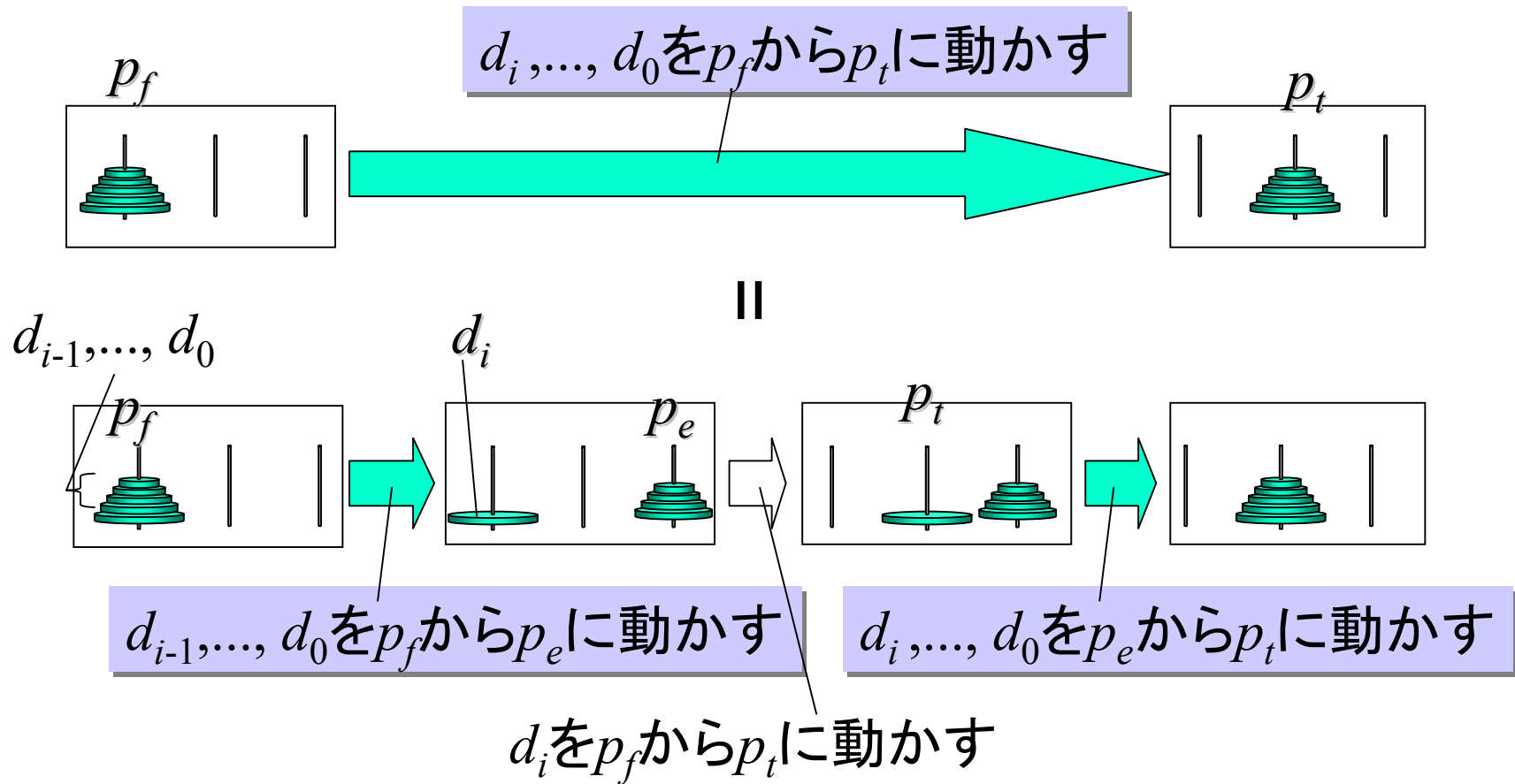
# 再帰的メソッドの応用

- 7-8: 冪乗
- 7-9: ハノイの塔

- 一番上の円盤のみ動かせる
- より大きい円盤の上にはしか置けない



# ハノイの塔





# 課題レポートの提出方法